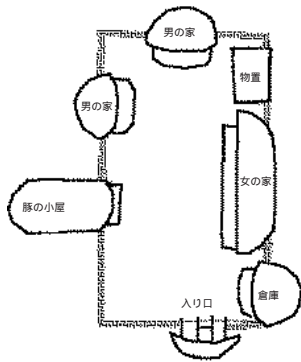




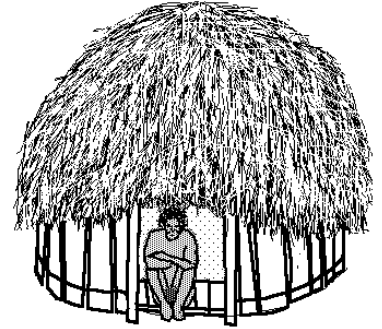
イリアンジャヤ (インドネシア領ニューギニア)

裸族との生活体験記-その7

マッシュルーム型の小さな茅葺きの家は、ダニ族の男の家です。私達が訪ねていったときは、裸のおじいさんが家の入り口にぼつんと腰掛けてい

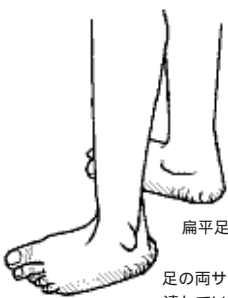


ました。集落の見取り図を描くとこんな風になっています。長方形の敷地で、肩ほどの高さの塀をめぐるしてあります。入り口は小さく、おまけに梯子があり、簡単に出入りできない仕組みになっています。その入り口の正面に、必ず男の家があります。男は、男の家に男だけで寝るのだそうです。そうした男の家が2、3軒あって、他に、長方形の女の家が一軒(女性と、小さな子供はこの一軒に住む。)、豚の家、倉庫などがあります。



女の家に入らせてもらいました。入り口は3カ所。入り口もしゃがんで入る大きさですが、家の中もかなり腰をかがめて歩かないと頭をぶつける高さで

す。床には、わらが敷き詰めてあって、うさぎ小屋のイメージです。(男の家も、同じイメージ)寝床らしいものはありませんでした。きっと、眠くなったらそこにごろんとひっくり返るだけなのでしょう。簡単な炉が3つありました。思ったほど煙がなく、何よりも暖かく、裸でいられる理由が分かります。(この辺り、夕方から夜にかけては結構寒い。私は、いつも厚手の長袖を着ていました。)子犬と子豚が自由に中を走り回っています。家の端っこに、子豚用のしきりがあって、中にも何頭かいました。変なおいもなく、汚いイメージはありません。ときどき、鶏が入り込んで、これは外に追いやられていました。



扁平足が多い

足の両サイドが、すごく発達していて、幅広の足。

足先は、ついた泥が乾いて白くなっている。

鶏は、敷地の中の歩く掃除機。人間が食べていると、そのそばに鶏が寄ってきて、芋のしっぽや焦げた皮など、捨てた部分を争って食べてしまいます。人間の方も、捨てるというより、食べない部分をぼろっと落とすと言うくらいきれいに片づいてしまいます。掃除をするという概念は、きっとないんでしょう。この辺りに住む部族に

トイレという空間はないのだそうです。この敷地のどこかで、用を足せば、すぐに豚がきれいに片づけてくれるのだとか。豚は、敷地の外の歩く掃除機。でも豚のウンチを吸い込む掃除機はいないらしく、集落と集落を結ぶ道々、結構落ちていました。(ここの豚は、毛が結構長くて猪みたい)私達は、踏まないように、地面の落とし物に気を配って歩いていましたが、村の人たちは、裸足ですたすと歩いていました。

靴をはいたことのない足が、どんな形をしているか想像できますか?何日間も、砂利道、岩の道でも歩く足です。普通の形の靴は、きっとはけないでしょう。足の裏の皮は、相当丈夫になっているようでした。

話は変わって・・・何人かの人から、「コテカはどんなふうにつける?着る?のか」という質問をもらいました。誰だって、あんなのすぐに、ぼろんとはずれちゃうんじゃないかしらと思いますよねえ。どうしてはずれないのか、どうなっているのか知りたくて、自分の目で確かめたくて、私達も行って来たんです。それが、今回の旅行の目的。ちゃんと見てきたんですが、字にするにも、絵にするにも、なかなか表現しにくいんですよ、これが・・・もうしばらく、想像して下さい。次のページに続く。



イリアンジャヤ (インドネシア領ニューギニア)

裸族との生活体験記-その8

肝心の部分がかけないまま、こんなにページをくって、段々だれてきましたが・・・今回は、問題の『コテカ』のことについて、とうとうかきます。

まず、呼び方。ダニ族は「コテカ」、モニ族は「コサガ」などと、部族によって少し呼び方が違います。

形もいろいろで、お土産用には、模様がかかれてあるコテカもありました。(これをつけている人を、私は見かけませんでした。)どんな形にせよ、必ずひもは

2本ついてます。一本は長めのわっかに、もう1本は根元に小さなわっかになっています。

そして、皆さんが一番知りたがっているつけ方(着方)ですが・・・私は、描くまいと思っていたけど、あまりにもたくさんの方がリクエストするので、描いてしまいます・・・!ぼかし無しで描いてしまえば、

こんな風になっています。さきっちょの長いひもをウエストの辺りに引っかけて着ます。体に密着するよ

うに着ている人もいれば、体から離す人もいます。長めの方は、体から離すようです。

じゃないと、うっかり自分の顎に刺さりかねないほどの人もいます。

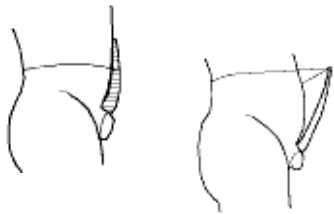
私達から見れば彼らは、裸族一裸で生活している人達一。でも、彼らにとっては、コテカ一本がついていれば裸ではない、恥ずかしくないのです。とは言え、最初は、なかなか直視できませんでしたよ・・・

マレーシアでもよく見かけることですが、腕を組みながら仲良くあるく男性二人をよく見かけました。子供じゃなく、若者もおっちゃんも、仲良く腕を組みます。日本ではまず見られない光景です。おまけに、こんな仲良し二人組も見ました。

さてさて、イリアンジャヤのこともすでに8枚目。行って帰ってきた直後はまだ興奮冷めやらぬ状態で、こんな「生活体験記」なんて大げさなタイトルを、つけてしまいました。私達は、たった3泊4日で、しかもホテル泊り。(トイレとシャワーはあるけど、お湯が出ず、私は冷たくて寒くて使えなかった!)本当の意味での生活体験はしていないわけです。そんな柔な私達に比べて、白人はすごくタフです。若い旅行者もちろんいますが、中年も後半あるいは退職後といった感じの老夫婦もまたたくさんいました。ホテルでしゃべったアメリカ人のおばちゃん「ここに来る前は、1週間ジャングルの中を船で移動したのよ。寝るのも船の中よ。ほんとに大変だったわ。ここはホテルがあるからいいわ。」ミイラを見に行った村で出会った老夫婦(デンマーク)。「今日はたいへんだよ。きのう5時間も、急な坂を上ったり降りたりして歩いたのに、また今日もだよ。背中が痛いよ、まったく。やれやれ、また歩くか・・・」このおじいさんはつえをつきながら、おばあさんと手を取り合っるところ歩いていました。私達は、全日程車をチャーターしていたので、車でこの村に来ました。なんて柔な私達・・・言い訳をすれば、トレッキングできるとか村に寝袋持参で泊まれると言った詳しい情報がなかったの・・・次に行かれる方、ぜひ泊まり込みで・・・(良いガイドを紹介します。)

この辺で、「イリアンジャヤ生活体験記」は終了とします。質問には、お答えしますので(答えられるなら)あればお知らせ下さい。長々と、読んで下さってありがとうございました。

では、*Jumpa lagi!*



次へいく